

2011 年震災に学ぶ [質的研究] : 災害環境でもリンパ浮腫ケアを行うことの重要性

災害は乳癌診療を危険にさらすことがあり、2011年の東日本大震災(地震、津波、原発事故)も例外ではありません。しかし、乳がん関連リンパ浮腫に関する詳細な情報は不足しています。

「公益財団法人ときわ会 常磐病院」では、2011年震災後の福島県沿岸部における乳がん患者について、リンパ浮腫に気づくまでの過程、直面する問題、必要とする支援、さらに震災が与えた影響等について調査を実施しました。この度、調査結果が論文として国際ジャーナル「in vivo」に掲載されました。

当院は、患者さん一人ひとりに適した医療サービスを提供するため、今後も学術研究を推進してまいります。

背 景

- 乳がんは女性に最も多いがんで、2020年には世界で推定230万人が罹患し、69万人が死亡すると報告されています。先行研究では、震災後、乳がん患者さんの初診時期が遅れ、乳がん検診の受診率が低下したことが報告されています。震災前と比較すると、震災後に乳がん治療が遅滞なく開始されたことは明らかでしたが、治療開始後に患者さんが受けたケアの詳細についてはデータが不足していました。
- 福島県いわき市はリンパ浮腫ケアに精通した医療従事者の不足に悩まされており、面積2,969km²、人口441,112人の中で数人しかいません。そのため患者さんがいつ、どのようにリンパ浮腫に気づくのか、直面する問題や悩み、患者さんが必要とする支援に関する理解が不足していました。
- そこで、患者さんがいつ、どのようにしてリンパ浮腫を自覚したのかを明らかにし、2011年の三重震災の長期的な余波の中で、これらの患者さんが直面する問題や必要とされる支援を探ることを目的とし研究を行いました。

方 法

- 乳がん治療後にリンパ浮腫を発症した患者を、常磐病院で募集した(N=16)。半構造化面接を行い、得られたデータはテーマ分析を使用して評価しました。

結 果

- リンパ浮腫に関連するテーマは、1)リンパ浮腫に気づくまでの経過、2)リンパ浮腫によるトラブルや悩み、3)リンパ浮腫管理に関する情報源、4)リンパ浮腫への対応、5) 2011年の災害がリンパ浮腫の治療に及ぼした影響の5つのテーマが特定されました。リンパ浮腫は最初の治療の直後にリンパ浮腫に気づく参加者がほとんどであり、日常生活、仕事、精神的不安などについてさまざまな悩みを抱えていました。その悩みを解決するために主に医療従事者に相談していました。これは、リンパ浮腫ケアが患者の悩みに合わせて対応するべきであることを意味していました。これらの発見は基本的に、非災害環境で実施された以前の研究の結果と一致しています。これは、通常、非災害環境と同様に、災害環境でもリンパ浮腫ケアを行うことが重要であることを意味します。さらに、2011年の災害による地域のリンパ浮腫の長期管理に対する限定的ではあるが無視できない悪影響がありました。

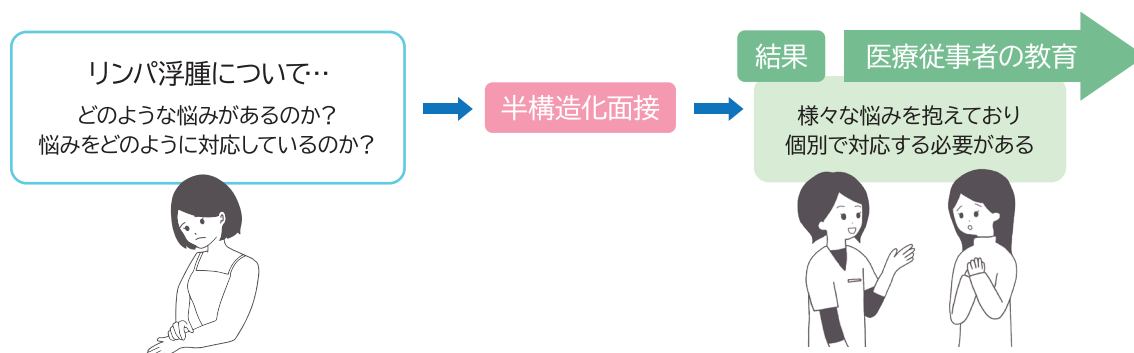


考 察

- 乳がん患者さんの間でもリンパ浮腫ケアについての意識が高まるべきであり、医療専門家はリンパ浮腫を乳がんの一般的な合併症として積極的に考慮し、日本の福島以外でも災害後の状況で必要な介入を実施する必要があります。

今後の展望

- ケアを担当する医療従事者はリンパ浮腫について積極的に学び、圧迫スリーブやリンパドレナージなどの効果的な介入を提案する必要があります。



- 論文タイトル Experiences on breast cancer-related lymphedema in the coastal area of Fukushima, Japan in the long-term aftermath of the 2011 triple disaster: A qualitative study
- 学術雑誌 In Vivo
- 論文著者 小林奈緒美・尾崎章彦・小寺康博・金田侑大・Divya Bhandari・高松克守・笠井唯史・荒井めぐみ・高崎順子・齋藤宏章・澤野豊明・金本義明・佐藤裕之・坪倉正治・黒川友博・立花和之進・和田真弘・谷本哲也・大竹徹・江尻友三・新村浩明・神崎憲雄
- 論文URL <https://iv.iiajournals.org/content/38/1/272.long>

論文 ▶



公益財団法人

ときわ会
TOKIWAKE GROUP常磐病院
Jyoban Hospital

参考資料：結果まとめ

テーマ	コード
リンパ浮腫に気づくまでのプロセス	● 2年以内に自覚 ● ほとんどの患者が化学療法を受けた ● ほとんどの患者は自分で気づいた ● 医師に相談して治療を受けた人もいる ● 腕の浮腫に気づかなかった
リンパ浮腫についての悩みや不安	● 著しい個人差 ● 日常生活や仕事に支障 ● 趣味の細かい手作業ができなくなった ● 締め付け感や制限感 ● 腕や脇の下の不快感 ● 心理的影響 ● 外見を気にする人が多い ● 洋服選び ● 日常生活に支障はない ● どうしたらいいかわからない ● 他人と比較できない ● 対処のしようがない ● うまく付き合っていく ● 病院からの情報は役に立った ● 違和感や少し不快な感じ ● スリーブを装着し続けなければならないかもしれないという不安 ● 浮腫が悪化するのではないかと不安 ● 蜂窩織炎を経験し神経質になった
リンパ浮腫管理に関する情報源	● 医療従事者に相談 ● 本やインターネットから ● 知人に相談 ● いつでも相談できる人がいた ● リハビリ中にリンパ浮腫を知った ● リンパ浮腫の相談はしていない ● 知人・同僚の乳がん経験者 ● 関係ないと思った ● インターネットからの情報過多を避けた
リンパ浮腫への対応	● 病院からのパンフレット ● リハビリテーションによるサポート ● 圧迫スリーブの導入 ● 治療はないと思っていた ● 外来リハビリを知る ● リンパドレナージを知る
2011年の災害がリンパ浮腫の治療に及ぼした影響	● 被災後の受診を回避 ● 震災後に医師不足を知った ● インターネットで乳がん専門医を探せなかった ● 2011年の震災によるリンパ浮腫診療への影響は明らかではない ● 震災の経験は治療に影響しなかった

